

おやこひろはおやこひろは桜梅桃李代表・性教育インストラクター
 やなぎ たに かず み
柳谷和美さん(50歳、垂水町1)



知ることが拓く未来

ハーブティーを淹れながら、大好きなボン・ジョヴィを鼻歌で歌う。「今日はたくさんおしゃべりする」と語る笑顔には愛らしさだけでなく、強いエネルギーを感じる。

日本社会でタブー視される性の問題。彼女は性教育に関する講座や講演を9年間行っている。なぜそこに着眼したのか。それは彼女自身が性暴力の被害者だからだ。

5歳で友人の父親から、7歳で従兄から被害を受けた。おっちゃんとおぼろ、和美こっちゃん、優しい誘いで性暴力は始まった。「なぜ体を触られるのか分からず、恐怖よりも不思議さが勝った。生活の中で被害状況と似た体勢になる度に、された行為を思い出し続けた」。

性暴力は「魂の殺人」と呼ばれている。彼女自身その行為が性暴力と知ってから、羞恥や恐怖で誰にも言えず、長く一人で苦しんでいた。あるとき、新聞の特集が目に入った。性犯罪認知件数より被害者数がはるかに多いという内容に衝撃が走った。「辛い過去としていた性暴力に怒りが湧いた。私のように誰にも言えず苦しんでいる人がいるのでは。そう思うと、当事者の苦

しみを伝えることで被害を無くす一助になるのではと打ち明ける覚悟ができた」。彼女は新聞社からの取材に応じ、講演活動も始めた。

「知ることによって未来は変えられる」と彼女は振り返る。不必要に服を脱いではいけない。性器などは人に触らせたり見せたりしない。自分の命の尊さを知っていたら、犯罪の多くは防げただろう。「無知が犯罪の原因になり得るということを実感した。歪んだ性の情報がインターネット上に溢れている現代。健康や命を大切にするための性の知識、人間の心と体の変化を親子で楽しく学べる機会を作りたい」。現在は性教育のさらなる普及を図るため、インストラクターの養成にも注力する。

子育てをしながら活動するうちに彼女が感じたことは、子供の未来は未知数だということ。「友人の父親も従兄も加害者になるために生まれたのではない。彼らも性に関して正しく知っていれば何か変わっただろう。加害者も被害者も作らない温かい社会をめざして、私は声をあげる」。

無知が呼ぶ魂の殺人。自らの過去を力に変え、彼女は「知」の芽をまき続ける。